

藤井新社長インタビュー

東京海上Gとのシナジー強化

ウエスト少短と2社体制でシェア拡大へ

東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化

東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化は、4月1日付で藤井重太郎が新社長に就任した。同社は賃貸住宅マーケットに特化したビジネスを展開しており、賃貸住宅入居者向け「お部屋の保険」や「お部屋のメンテナンス」などの商品を提供し、顧客のニーズを伸ばしている。また、賃貸住宅マーケットのさらなるシェア拡大に向けて東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化を図っている。「東京海上Gとウエスト少短とのシナジーを一層強化して賃貸住宅マーケットの存在感を高めた」と語る藤井社長は今後の抱負や計画について聞いた。

入社後、営業、法務、商品開発、人事などの部門に携わってきたが、以前から東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化の機会を得たいと考えてきたこともあり、経営者という立場は初めての経験でプレッシャーもあるものの、大きなやりがいを感じている。これまでの自身の経験を生かすとともに、東京海上Gグループの一員として当社の持つ強みをさらに高めていきたい。また、保険は「people's business」であり、「安心」としての使命である「安心」

私に、東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化の使命である「安心」



藤井社長

ビスの開発や代理店事務プロセスの二層の改善などに努めていく必要がある。本年度の重点施策は、昨年12月に最終システムを刷新した。これにより、インフラ整備に一定のめどが立った。本年度は具体的な効果を出すべく、営業力強化のための施策を展開していく。

現在、業界に対する認識は、少短業界は引き続き高い成長を維持しており、賃貸住宅マーケットにおいても存在感が高まっている。一方、異業種からの新規参入も続いている。少短マーケットはまた成長の余地が高い。東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化は、競争が激化している。少短マーケットはまた成長の余地が高い。東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化は、競争が激化している。

改正保険法の施行が迫っているため、代理店への体制整備支援もインフラインフラの観点から重要だ。これはお客さまだけでなく、代理店を守ることも大切な点である。当社は社員に求めること

現在会社には約150人の従業員が在籍している。役職や担当業務に違いはあるが、それが会社経営にとって重要で必要不可欠な役割を担っている。自身の業務が会社経営に直結していることを認識するとともに、常に「会社をどう

損害部門の強み生かして事故の未然防止も

災害救助法が適用された地域にお住まいの契約者の被害の被害対象に、更新保険料のお支払いなどについて一定期間の猶予措置を設けるなどの特別措置を実施している(詳細はHP参照)。1日も早い復旧を心から祈念している。私に、東京海上Gとウエスト少短のシナジー強化の使命である「安心」

「王道」ということや大げさだが、「常に正々堂々と正面から物事に取り組む」という意味だ。業務に取り組む中で多くの困難に遭遇し、場合によっては安易な道を行く選択が頭をよぎることもあるかもしれないが、あきらめずに真正面から正々堂々と取り組むことが、結果的に最も早く正しい選択になると考えている。今後の会社経営もこうした気持ちを持って取り組んでいきたい。

「王道」ということや大げさだが、「常に正々堂々と正面から物事に取り組む」という意味だ。業務に取り組む中で多くの困難に遭遇し、場合によっては安易な道を行く選択が頭をよぎることもあるかもしれないが、あきらめずに真正面から正々堂々と取り組むことが、結果的に最も早く正しい選択になると考えている。今後の会社経営もこうした気持ちを持って取り組んでいきたい。

「王道」ということや大げさだが、「常に正々堂々と正面から物事に取り組む」という意味だ。業務に取り組む中で多くの困難に遭遇し、場合によっては安易な道を行く選択が頭をよぎることもあるかもしれないが、あきらめずに真正面から正々堂々と取り組むことが、結果的に最も早く正しい選択になると考えている。今後の会社経営もこうした気持ちを持って取り組んでいきたい。

「王道」ということや大げさだが、「常に正々堂々と正面から物事に取り組む」という意味だ。業務に取り組む中で多くの困難に遭遇し、場合によっては安易な道を行く選択が頭をよぎることもあるかもしれないが、あきらめずに真正面から正々堂々と取り組むことが、結果的に最も早く正しい選択になると考えている。今後の会社経営もこうした気持ちを持って取り組んでいきたい。

「王道」ということや大げさだが、「常に正々堂々と正面から物事に取り組む」という意味だ。業務に取り組む中で多くの困難に遭遇し、場合によっては安易な道を行く選択が頭をよぎることもあるかもしれないが、あきらめずに真正面から正々堂々と取り組むことが、結果的に最も早く正しい選択になると考えている。今後の会社経営もこうした気持ちを持って取り組んでいきたい。

「王道」ということや大げさだが、「常に正々堂々と正面から物事に取り組む」という意味だ。業務に取り組む中で多くの困難に遭遇し、場合によっては安易な道を行く選択が頭をよぎることもあるかもしれないが、あきらめずに真正面から正々堂々と取り組むことが、結果的に最も早く正しい選択になると考えている。今後の会社経営もこうした気持ちを持って取り組んでいきたい。